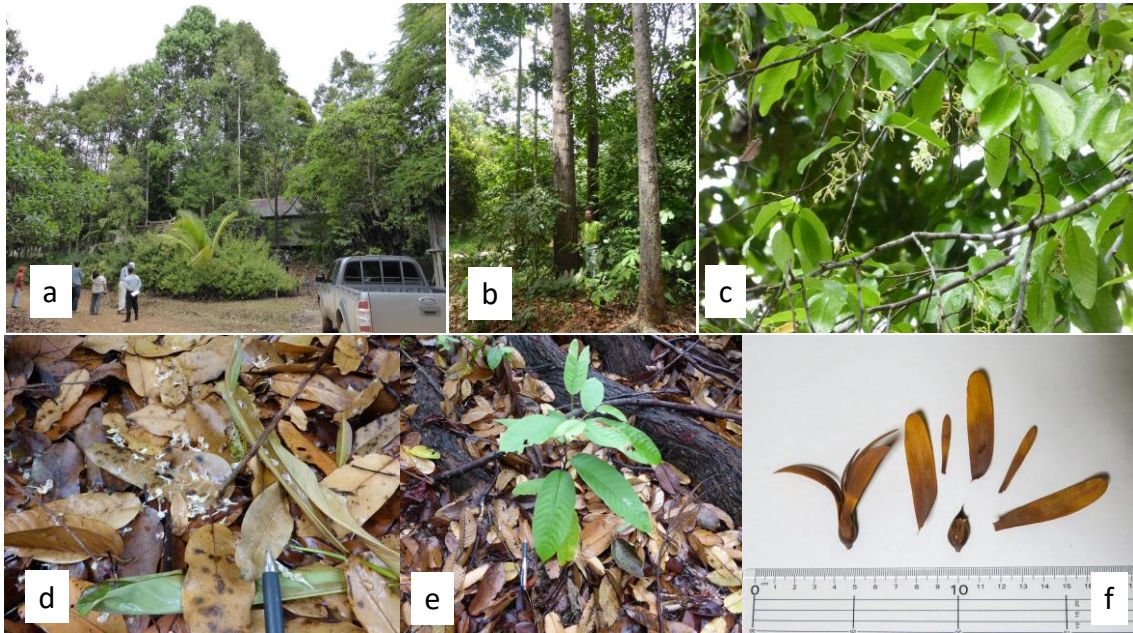


## ショレア・ロクスブルギー

*Shorea roxburghii* G Don. (フタバガキ科)



タイ語：Phayom ミャンマー語：Kaban ywet they マレー語：Meranti temak nipis



【概要】インドから半島マレーシアにかけて分布する高木。フタバガキ科 *Shorea* 属に属し、材取引上ではホワイトメランティーに分類される。材が建材として利用されるだけでなく、樹皮から染料をとり繊維を染色する際に利用されるなど、多くの用途に使用される。

【形態】樹高 40m を超える高木。幹の直径も 95cm に達するものが確認されている。幹は通直(写真 a, b)で、地域により落葉する。葉は単葉で互生、楕円形で長さは 8~15×3~7.5cm (写真 c, d)。花は花弁、がく片各 5 枚で白、もしくはクリーム色、時々うっすらピンクになる(写真 c, d)。果実は球形で 3 枚の長い羽根(長さ 6~8cm)と 2 枚の短い羽根(長さ 3~4cm)がついている(写真 f)。乾期に開花し、乾期後半に果実が熟し風によって飛散される。外皮は褐色で時に分厚くなる。内皮は鈍い黄色。辺材はうすい黄色で心材部分は茶黄色から赤茶色とされている。

【生態】インドからミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、半島マレーシアの乾燥フタバガキ林、混交落葉林、熱帯常緑林にかけて幅広く分布する。標高 1200m 以下の主に砂質土壤に分布している。マレー半島まで分布する *Shorea* 属の中では乾燥や山火事への耐性が高いことで知られる。

【繁殖・育苗】種子の保管は難しく、低温や乾燥によって発芽率が落ちることから、種子を採取した後、すぐに播き付け箱などに播種する。天然更新もよく見られる(写真 e)。播種から 2 週間ほどで発芽し、その後ポットなどに移し替え、相対照度 50~60%にした環境下

## 森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

で育苗する。植栽1か月ほど前に直射光が当たる場所に移し明るい環境に馴らしたほうがよい。

**[成長・その他]** 成長は植栽環境で大きく異なり、植栽17年で樹高が15mを超えるケースから植栽15年でも平均樹高が8m以下というケースも報告されている。天然分布では幅広い環境下で生育するが、植栽地による成長の差は大きい。材の気乾比重は560~790kg/m<sup>3</sup>。

**[主な参考文献]** Gardner et al. (2007) A field guide to forest trees of Northern Thailand. Kameda C. et al. (2019) Forest Plants of Central Laos. A field guide for forestry. Meunpong et al. (2010) Kasetsart J. 44: 1044-1057. 大谷達也 (2011) 海外の森林と林業 81:8-13. Plant Resources of South-East Asia (PROSEA) No.5(1) Timber tree: Major commercial timbers.1994. Smitinand T. et al. (1980) The manual of Dipterocarpaceae of mainland South-east Asia. Forest Herbarium, Royal Forest Department, Thailand.

(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 米田令仁)

写真 a 樹形 (植栽) 撮影地：インドネシア、撮影年月：2020年2月、撮影者：仲摩栄一  
写真 a 樹幹 (植栽) 撮影地：インドネシア、撮影年月：2020年2月、撮影者：仲摩栄一  
写真 c 花序 撮影地：インドネシア、撮影年月：2014年3月、撮影者：仲摩栄一  
写真 d 落葉上の花卉 撮影地：インドネシア、撮影年月：2014年3月、撮影者：仲摩栄一  
写真 e 稚樹 撮影地：インドネシア、撮影年月：2014年3月、撮影者：仲摩栄一  
写真 f 果実 採集地：タイ、採集年月：2012年12月、撮影者：JIFPRO